

NEWS LETTER ニューズレター

生活・総合学習ネットひょうご No.2

平成28年3月22日

巻頭言	…1
＜特集＞	
日本生活科・総合的学習教育学会 第24回大会に参加して	…2
お知らせ	…



－ 巻頭言 －

付箋紙に思う

会長 溝邊 和成（兵庫教育大学）

最近、付箋紙授業が大流行りだ。総合的な学習の時間のみならず、他の教科学習の授業風景においてもよく見受けられる。また、児童・生徒の学びの場にとどまらず、教員の研修場面でもよく目にする。何がそんなにいいのか。説はいろいろとあるだろうが、筆者としては、それ自体、あまり驚くような代物でもなく、何か思いついたことを記録するメモ帳の一種であり、置き手紙のたぐいと解釈する。しかしそれは、自分の目のつくところに貼付けることができるため、以前書いたことを思い出させてくれたり、そのメモを他者が記したものとして扱い、吟味したりするチャンスを与えてくれる。また、そればかりか、いくつか寄せ集めて、短時間でそれらを読み比べたり、仲間分けしたりすることもできる。

こうしたことに改めて意識を向けてみると、付箋紙は、持っている者の頭中の変化、すなわち思考を表す道具であり、記述の仕方によっては、知っている何かを書き表す以上に何ができるかなどを映し出す精巧な機械にさえ見える。また、内省機能が宿っていたり、建設的な意見創出や自己の立場の確認・調整役を担っていたりする。これはツール使用によってメタ認知を稼働させている場面だろうが、あたかも付箋紙がもう一人の自分であるかのようにも思える。さらに、一人一人の意見を見えやすくし、かつその集合体をゆるやかに形成・変形・拡張させることも容易にでき、結果的には互いがよしとする互恵的問題解決が図られる。その仕掛け人・仲介者と

なっているのも驚きだ。

これからも、かさばらず、持ち運びが便利でペタペタとどこにでも貼付できるアナログ的利点は、ある種の安心感をもたせつつ、その所有者を主体的な学びのステージへと導くだろう。また今後、この付箋紙は、その特徴を活かしながらも様々な他の道具とのコラボで独特な進化を遂げ、次世代教育の先端を走る存在になっていくかもしれない。不確定要素はあるものの、暫くこのブームは続くと思う。

さて、次世代も学びの中核を自負する「生活科・総合的な学習」においては、上述のような付箋紙とは別にどんな必須アイテムがあるのだろうか。探究に向かうベースとなる思考の習慣を身につけ、生涯学習社会の中で生きていく児童・生徒にとっての道具である。実は、それを見つけ出すことが、この分野を研究する私たちにとって重要なミッションであるといえる。その回答を見いだす1つの試みとして私たち「ネットひょうご」の活動があるように思える。決して単独で到達するものではないだろう。だからこそ多くの者が集まり、協働し、議論するなかから、見つけ出す努力をしていくのである。幸いにも現在、着実に歩み始めている。機会があれば、ぜひドアをノックしていただければと思う。県内にとどまらず、日本、世界を舞台に「ポスト付箋紙」の発見や「新しい付箋紙」の共同作成ができれば幸いである。

第 24 回福岡大会を振り返って

神戸親和女子大学 藤池安代

第 24 回全国大会福岡 2015「豊かな学びが子どもを変える未来を拓く」をテーマに掲げ下記の日程で実施され、本大会には全国各地から参加者が集い、活発な意見交換が行われました。公開授業、研究発表等の会場が離れていたにもかかわらずどの会場も熱心な参加者であふれていました。

1. 埼玉大会の概要から

[1 日目]

◆公開授業と研究協議会

幼稚園会場：学校法人汀幼稚園において3歳児、4歳児、5歳児の「おはなし」を中心とした保育提案と協議

小学校会場：福岡教育大学附属福岡小学校と福岡市立福浜小学校の2校から生活科・総合的な学習の授業提案と協議

中学校会場：福岡教育大学附属福岡中学校において総合的な学習の授業提案と協議

自由研究発表会：福岡大学附属若葉高等学校において、自由研究協議、33部会130提案

課題研究：福岡大学教育附属福岡小学校、附属若葉高等学校において9部会

懇親会会場：ヒルトン福岡シーホークにて多くの参加者が楽しく交流

地域世話人会：都久志会館において行われ、神戸女子大学 金岩 俊明先生が出席された

[2 日目] 於 都久志会館大ホール

[記念講演]

「我が国が目指すこれからの義務教育の方向性と

課題」を演題に、文部科学省文部科学審議官 前川喜平先生より講演いただく。

[シンポジウム]

記念講演を受けて同演題にてシンポジウムが行われた。

コーディネーターに福岡教育大学 寺尾慎一教授、シンポジストに文部科学省文部科学審議官 前川喜平先生、中村学園大学 堤 直樹教授、仙台市立広瀬小学校 鈴木美紗緒教諭、福井大学 松田淑子教授で意見交換が行われた。

[閉会行事]

2.シンポジウムの趣旨について

昨年 11 月に文部科学大臣から新しい時代に相応しい学習指導要領等のあり方について中央審議会に諮問がなされた。それには、厳しい挑戦の時代を迎えるにあたって、将来を担う子どもたちには、社会の変化を乗り越え、他者と協働しながら価値の創造に挑み、未来を切り開いていく力が必要であることから、基礎的な知識・技能を習得し、実社会や実生活でそれらを活用しながら、自ら課題を見出し、その課題に向けて主体的・協働的・探究的な学びが必要であると謳われている。本大会テーマ「豊かな学びが子どもを変える未来を拓く」はこれからの教育の方向性を意図したものである。

記念講演で次期学習指導要領の改訂に向けた生活科・総合的な学習の時間はどのように改善を図ることが重要であるかをご教示いただき、シンポジウムでは、学会員や学校現場、大学の立場からこれからの生活科・総合的な学習の時間のあり方について議論・意見交換がなされた。

第 24 回福岡大会に参加して 課題研究をコーディネート

兵庫教育大学 溝邊 和成

今回学会でコーディネートした課題研究は、「ESD から GAP を志向する生活科・総合的学習の指導力向上をめざして ～動的学びを支援する授業デザインツール：ラーニングスケッチを考える～」であった。コーディネーターは、酒井達哉（武庫川女子大学）氏と筆者。話題提供者として、安田あすか先生（神戸市立北須磨小学校）を迎え、指定討論者を平山恭子先生（神戸市立御蔵小学校）にお願いした。

当日は、約 50 名を超える参加者となり、話題提供とともに指定討論者の意見を踏まえて、活発に意見交流がなされた。

分科会の趣旨は、以下の通りである。

（前略）ESD に続く GAP を踏まえつつ、アクティブラーニングを具体化する授業デザインツール作成への共同参加を設定した。話題の中心とするツールを「ラーニングスケッチ」と称しているが、現在のところ、具体的形式は定まっていない。そのフォーマットづくりの公開検討は、全国的にも初めての試みである。しかし、そのベースは、生活科成立以来、生活科・総合的な学習の時間で扱う指導案のフォーマットの変化や実践記録の記述に求めることができる。例えば、具体的な活動の流れや子どもの思考／発言等を挿絵や吹き出しを活用してビジュアル化してきている点が挙げられる。リアルな環境を対象とした活動的な学習を支える指導案や実践記録の変化は、子どもの学びをよりの確にしようとする試みであり、幼児期カリキュラムを支える日々の保育案や記録につながるものともいえる。身の回りの環境を対象とし、アクティブラーニングを本質とする生活科や総合的な学習の時間を語る指導案・実践記録のフォーマットとしても、このラーニングスケッチは、活用可能性を持つのではないかと考える。また、生活科や総合的な学習の時間に生起する「学びの物語」やアセスメントへの挑戦ともいえる

る。じっくりと参加者の意見に耳を傾けたい。」

話題提供では、安田先生のラーニングスケッチを試行した実践（第 1 学年）発表がなされた。実践をより分かりやすくする工夫として、校庭や教室など具体的な活動場所が記されたシートにそれぞれの場所での子どものめあてや取り組みや示されている指導案が用意された。

平山先生（指定討論者）は、具体的に安田先生の提示されたラーニングスケッチを参考にしつつ、以下のようにまとめた。

ラーニングスケッチは、“子供主体”の学びの理念を表現しており、動的な学びをめざして授業をプランニングする際に用いるのに有効なツールであるとする一方で、スケッチを描くための技量に影響され、また手間が非常に大きい点を課題としている。このラーニングスケッチの研究は、これまでの指導案の概念を大きく変えるものにとらえつつ、具体的な記述内容の吟味に期待が集まる。

参加者からの意見として、次の点が話題となった。

- ・ 本時のめあて、活動場所、前時までの活動の様子、他の単元との関連の表記について
- ・ 生活科マップ、幼稚園との関連について
- ・ 動的学びの可視化、子どもの思考の流れについて
- ・ 2次元表記から3次元表記について

本課題研究終了後に得られたアンケート結果は、下記の通りであった（数値は、各項目 4 点満点とする平均値を示す）。

- ・ 課題研究に参加してよかった：3.57
- ・ ラーニングスケッチは価値がありそうだ：3.52
- ・ 自分自身もラーニングスケッチを考えてみたい 3.43

さらに、ラーニングスケッチを作成するとしたら、どのような項目等が必要かに関しては、フォーマット（PC 作成用）の統一や教師の意図、子どもの思考の流れ、手立て（準備物、学習形態、学習場所）などが挙げられていたことがわかった。

以上のように、本課題研究では、多くの参加者から意見を得ることができた。それらをもとにした今後の研究成果が期待される点で、関係者一同、取り組むべき課題を確認し合うことができた。

第24回福岡大会に参加して
福岡で「いのち」を語る

兵庫教育大学附属小学校 森川茂樹

日本生活科・総合的学習教育学会の全国大会は、今回が第24回、私自身は4回目の参加となった。福岡は、本校に人事交流で多く赴任されていることもあり、何となく親近感と心強さを感じられた。

公開授業、研究協議の後、いよいよ自由研究発表。今回の私の発表テーマは、『『自己の成長』に関する生活科授業の工夫』である。これは、「いのちの絵」の作成・交流活動から、自分の命や成長に関しての気づきの変容を探るものである。具体的には、「生まれたときのいのちの絵」と「今のいのちの絵」を描き、それを自分で比較したり、友だちに比較してもらって意見や質問をもらったりする。その活動から自分の「いのち」を見る視点が増え、より深く命や成長を見つめ直すことにつながっていくのである。

発表では、命の色や形から、子どもたちが命をどのように捉えているのか、また、色や形の変化から成長をどのように考えたのかを中心にプレゼンを行った。参会者からは、実際に「いのちの絵」を描かせるためのプロセスや留意点などの質問や、命を授業で捉えることの難しさについての意見をいただくことができた。

「いのちの絵」の実践は、3年前の徳島大会でも発表をしたものであるが、今回はさらにデータを細かく集めることで、絵を元に交流することの可能性を確認することができた。特に、子ども自身が意識していなかったことが、他者との交流の中で意識化され、気づきの深まりにつながっていったことは、大きな成果であった。

課題研究発表では、溝邊先生、酒井先生がコーディネーターをされていた「授業デザインツール（ラーニングスケッチ）」に参加させていただいた。本校においても、ラーニングスケッチについての研究を進めていきたいと考えている。

第24回福岡大会に参加して
先進地“福岡”で
「生活科のこれから」を学ぶ

神戸女子大学 金岩俊明

公開授業は、福岡教育大学附属小学校の1年を参観した。生活科は、領域「生き方」として実施されており、「自己内省力」「人間関係形成力」「意思決定力」の資質・能力を育成するために、内容として「いのち」「みらい」「くらし」が構成されていた。題材「おおきなあれ！わたしのひまわり」は、「いのち」を主内容に、生活科の内容(7)(8)(9)を総合的に取り扱ったものであった。本時の主活動は、自分のヒマワリを教室に運び、ゲストティーチャーとの交流により栽培活動における思いや疑問点を解決し、今後の世話に対しての意欲を高めるものであった。子ども達からは積極的な発言が相次ぎ、時にはゲストティーチャーの方が考え込む場面も見られ、例えば葉脈を見つけ自分たちの血管と結び付ける発言があり、参観者を唸らせる場面もあった。本会のテーマである「豊かな学び」が授業の場面での子どもの表現活動で伝えられた一コマであった。

課題別研究はg分科会に参加した。兵庫支部の先生方がコーディネーターをされ、神戸市立北須磨小学校の実践が紹介された。ESDからGAP（グローバル・アクション・プログラム）を指向したアクティブ・ラーニングのツールとしての「ラーニングスケッチ」の具体的展開例が提示され、今後の生活科の方向性を示す教材として参観者の関心を集めた。

2日目には、都久志会館での地域世話人会に出席した。今年も、全国の各支部から特色のある研究活動が資料により届けられた。兵庫支部からも、会則や冬期研修会の資料などを配布した。今回は、時間がなくブロックでの交流会はなかったが、各支部の資料からは学校現場と大学、それぞれのアプローチにより研究活動が進められている現状を学んだ。来年の仙台大会も、生き生きとした子ども達の姿の下に研究者・実践者が集い、参加者が「生活科のこれから」を見据える会になることを願っている。

平成 27 年度ネットひょうご夏期研修会
みんな大好き！「森の王者」カブトムシ

武庫川女子大学 酒井 達哉

1. 単元の指導概要

地域の里山の代表的な生き物はカブトムシであり、今も昔も子どもには圧倒的な人気である。しかし、採集や飼育に夢中になった親の世代とは異なり、今はゲームの中で擬似的に虫同士を戦わせる方に強い興味を持つ子が多い。本単元は、そのカブトムシを題材とし、飼育や観察、アンケート調査、博物館との連携など多様な体験活動を通して、児童に地域の自然環境にふれさせることをねらって構成したものである。

単元の展開に当たっては、学びの目的を持たせるために博物館と連携して地域内外の多くの子どもにカブトムシの幼虫をプレゼントするという目標を設定した。その際、幼虫と一緒に渡す、飼育方法や生態の不思議などをまとめたパンフレットをパソコンで作成した。また、カブトムシのアンケートを実施し、地域の環境の変化に目を向けさせていく。

以上のような活動を通して、昆虫にも自分たちと同じように命があり、生きていることを体感させるとともに、地域の自然を守りたいという問題意識を育むことをねらった。

2. 本単元の目標

カブトムシの飼育に意欲的に取り組むとともに、飼育方法や生態の不思議、地域での減少の様子について調べることで、カブトムシの成長や神秘的な変化の様子に驚きや喜びを味わうことができ、地域の自然を大切にしたいという心情を育むことができる。

3. 指導計画（全 70 時間）

○…学習活動 ◇…指導上の留意点

第一次 3 齢幼虫を成虫まで育てよう。⑩

◇カブトムシの幼虫の上手な飼育方法について調べ、成虫までの過程を観察する。

○地域の雑木林の調査や地域にアンケートを行い、今と昔の生息状況の変化を調べる。

◇カブトムシに関する資料やネットのサイトを準備しておき、上手に飼う方法について見つけやすくしておく。

◇他の生物の分布の様子を地図にドットで表した見本を用意し、今と昔の環境の変化を比較する方法を学ばせる。

第二次 調べたことをパンフにまとめよう。⑪

○成虫を産卵させて、卵から育てる。

○春から秋までカブトムシを飼育して分かった、飼育の秘訣や生態の不思議などを班に分かれて、パンフレットにまとめる。

◇夏に産まれた卵は容器に移し、卵からふ化まで観察できるようにする。

◇地域の博物館と連携して幼虫を多くの子どもにプレゼントすることを提案し、飼育に対する目的意識を高める。

第三次 博物館で幼虫をプレゼントしよう。⑫

○幼虫飼育キットを 300 セット用意する。

○参加者にカブトムシについて学んだことや飼育の方法が、わかりやすく伝わるように発表の練習をする。

◇ペットボトルを加工して腐葉土と幼虫を入れる、簡易飼育キットの作り方を伝え、一人 10 個程度作り、水やりやふんとりなどの管理を任せる。

◇博物館のホールで、参加者にカブトムシについて学んだことや飼育の方法を発表する機会を設定する。

第四次 守るためできることをしよう。⑬

○地域の方々にも学んだことを伝える。

○アルミ缶のリサイクルで得たお金でクヌギの苗を買って、学校の裏山に植える。

○幼虫を学校の裏山の腐葉土の中に放す。

◇地域の方々にも学んだことを伝える場を設定し、さらに表現力を高める機会とする。また、情報の発信が地域の方々への自然環境への意識を高めることにつながることに気づかせる。

平成 27 年度ネットひょうご夏期研修会
本校の実践を広める

兵庫教育大学附属小学校 森川 茂樹

今年度の「ネットひょうごの会」夏期研修会では、私の授業実践を発表する機会をいただくことができた。この発表は、7月に本校で行った「附小交流会」での授業をまとめたものである。

単元名は「なつをたのしもう!」。子どもたちに「夏と聞いて思い浮かべるものは何か」を尋ねたところ、大きく分けて「自然(虫、花など)」「遊び(水遊びなど)」「行事(七夕、夏祭りなど)」「涼しさ(扇風機、エアコンなど)」が挙がってきた。これらの視点を関連付けながら学習することで、夏についてのイメージを明確にもつことができ、夏のよさにせまることができるのではないかと考えた。その中で、今回は「涼しさ」に焦点を当て、「すずしいばしょさがし」という授業を展開した。

授業を行うにあたって、子どもたちがより主体的に学習に取り組むためのツールとして、「ラーニングスケッチ」を活用した。ラーニングスケッチとは、子どもたちが活動の中で気付いたことを、学習する場所(環境)に合わせて記入するものとしている。これにより、場所をもとにした気付きの表出が容易になり、気付きの交流においても気付きの比較がしやすくなることから、子どもたちが主体的に学習を展開することが期待できる。また、ラーニングスケッチには教師の意図や指導上の留意点も盛り込むことができる。これは、生活科の授業を組み立てる教師にとっても有効であると考えられる。

実際の授業では、子どもたちはラーニングスケッチに書き込んだ「涼しさ」の気付きをもとに、個々の意見を交流した。そして私は、自分の書いたラーニングスケッチを子どもたちの意見と擦り合わせながら、授業をコーディネートした。子どもたちの「涼しさ」に対する発想に驚くとともに、ラーニングスケッチの今後の可能性を感じることができた。

平成 27 年度ネットひょうご夏期研修会
「やさいパーティーをひらこう」の実践より

兵庫教育大学附属小学校 田中 吾子

「おいしかったから、家でも作ってみたよ」「自分が作った野菜だからおいしいね」これは、単元名「やさいパーティーをひらこう」の学習の終末、やさいパーティーを開いたときの子どもたちの感想である。自分たちで育てた野菜を使って、自分たちで調理し、食べる。この単元を通して、植物への親しみをもって世話をする楽しさや自分で作ったものを食する喜びを味わえるようにした。この私の授業実践は本校の「附小交流会」で行ったものである。

実際、子どもたちは、自分たちで育てた野菜を食べることや収穫を楽しむことを楽しみにし、毎日水をやり、草を抜き、愛情を込めて育てた。その野菜を学級で食べる時期となった1学期末。そのころになると、「トマトが大きくなった」など子どもの話題にも頻繁に挙がるようになってきた。その中で、大きく育てた野菜をどのように食べるのかが課題となった。そこで、家庭で野菜をおいしく食べるコツを調べ、グループごとに「よりおいしく食べる」調理法を考えた。子どもたちが活動しやすくなるための手立てとしてラーニングスケッチを活用することにした。そこには、目標、今まで学習してきたこと、子どもの気付き、活動を明記した。ラーニングスケッチを作ることにより、指導内容、子どもの活動が明らかになり、学習の流れをイメージすることにも役立った。そして、子どもたちの気付きをどのようにつなげていくのかを教師自身が考えることができた。

子どもはそれぞれの活動、体験、場所で多様な気付きを生み出す。それを表出せずに活動をしただけに終わらせてはいけないと考える。この実践を通して、その手立てとして、ラーニングスケッチが活用できるとさらに感じた。

平成27年度ネットひょうご冬季研修会

「報告(事業部)」

神戸女子大学 金岩 俊明

平成27年12月26日(土)、神戸市立須磨海浜水族園にて冬期研修会を実施しました。

全体会として、溝邊会長の挨拶、続いて今回会場をご提供いただきました須磨海浜水族園社会教育課長の日和田様のご挨拶がありました。その後、研究・実践発表として、姫路市立城北小学校長谷川先生による総合学習の実践として、「同じ願いをもつ人たちと共に“夢”を叶える单元づくり〜ジャコウアゲハが姫路いっぱい飛びますように〜」、神戸女子大学金岩先生より養成教育として、「大学生が生活科に対して抱いているイメージについて〜自由記述文の分析を通して〜」の貴重な報告がありました。

次に、学芸員の笹井様より、「神戸の川の生き物」の講演とワークショップがありました。講演では、ご自身のフィールドワークに基づいて、河川の上流域から河口域に至るまでの生物相の解説があり、自然環境の危機に瀕している状況を説明いただきました。次に、ワークショップでは、魚類や両生類、爬虫類などの実物にふれ合っ

て学ぶコーナーを設置いただき、参加者は、具体的な生き物の観察の視点や扱い方を学びました。最後に、特別講演として、広島大学教授の朝倉先生より、「挑戦者として学ぶー生活科・総合のストーリーー」と題してのお話がありました。未来志向の生活科・総合的学習を創造するためには、「個人」「集団」「人類」の挑戦があり、問題解決や目的実現によりストーリーができていくというお話に参加者は感銘を受けました。

今回は、大阪支部より3名の先生方の参加があり、初めての支部間交流ができました。また、年末の多忙な時期でしたが、会員はじめ、兵庫県の先生方の多くの参加をいただきました。また、教員を目指す武庫川女子大学、神戸女子大学の学生の方々も多数参加してくれました。厚くお礼申し上げます。

学芸員 笹井氏による講演とワークショップ

「神戸の川の生き物」

学会・授業研究会等のお知らせ

「日本生活科・総合的学習教育学会

第25回大会(仙台大会)」

1. 大会テーマ

震災体験を乗り越え、時代を切り拓く子ども

ー地域の一員として主体的にかかわり共に生きる力を育む生活科・総合的な学習の時間の創造ー

2. 日時 平成28年6月11日(土)12日(日)

〈第1日目〉 公開授業・授業研究

授業校 仙台市立広瀬小学校 宮城学院高等学校
宮城学院附属幼稚園

課題別研究発表・自由研究発表

会場 宮城学院女子大学

〈第2日目〉 全体会

(開会行事、シンポジウム、閉会行事)

会場 宮城学院女子大学

参加費 3500円(一般)、2500円(学生)

下記HPをご参照ください。

<http://seikatsu-sougou.org/wp-content/uploads/80e0c444a4778cb3654caa20e6eadcd2.pdf>

「生活・総合学習ネットひょうご」への
入会および退会の手続きについて

<目的>

本会は、日本生活科・総合的学習教育学会の兵庫県支部を兼ね、国内外の生活科・総合的学習教育に関する研究を行うとともに県内の実践の発展と普及に努め、会員相互の連絡と協力を促進することを目的とします。

<事業内容>

- 1 生活科・総合的学習教育に関する研究・実践の発表大会
- 2 会員相互の研究・実践発表
- 3 会員の全国大会発表への研究支援
- 4 兵庫県内各種研究会・協議会への支援・協力

年会費は、一般・現職大学院生 1,000 円、学生 500 円です。

<入退会連絡先>

兵庫教育大学附属小学校 森川茂樹先生

e-mail : naochinkoro20070410@yahoo.co.jp

<事務局> 〒663-8558

西宮市池開町6-46

武庫川女子大学文学部教育学科

酒井 達哉

e-mail : t_sakai@mukogawa-u.ac.jp